

兵庫の屋根 氷ノ山のふもと 重要文化財の農村舞台で歌舞伎を伝承

兵庫県 養父市



平成15年、復活公演として、葛畑芝居堂で「絵本太功記十段目尼崎閑居の場」を上演。



1554年に神社の境内に建てられた「葛畑芝居堂」。1892年に本格的な修復を行い、1910年に国の有形民俗文化財に指定された。



歌舞伎で主に使われる、太さおと呼ばれる三味線の練習。

事例の概要

●国指定重要文化財である「葛畑芝居堂」の改修を機に、平成15年、地元住民が37年ぶりに「葛畑座」を復活させ、以来、葛畑芝居堂での公演を行うとともに、次世代の農村歌舞伎を育成するため、子ども歌舞伎の指導と普及活動を行っている。

●葛畑区は、高齢者率が40%を超え、地域の活力が低下していたが、山間にぼつんと建つ「葛畑芝居堂」を過疎集落住民が主体的に守り、農村歌舞伎を後世に残す活動を続けている。葛畑の良さを内外に知ってもらうことは、区民としての誇りであり、村の元気とエネルギーの醸成にもつながっている。

評価のポイント

明治3年、大阪の芝居小屋で歌舞伎の修行をした藤田甚左衛門がふるさと葛畑に戻り、地元の農業を営む人たちと「葛畑座」を結成した。農村歌舞伎は昭和の初め頃まで盛んだったが、一時衰退し、昭和39年第1回復活公演、昭和41年第2回復活公演を行ったものの、その後長らく途絶えていた。

しかし、その当時、役者等で関わった村の若者も老人となり、葛畑区の過疎化、高齢化が進む中、「もう一度、葛畑で歌舞伎を」という機運が高まり、平成12年に葛畑芝居堂改修工事を関宮町（当時）に要望、文化庁ふるさと文化再興事業により平成14年から工事を開始するとともに、葛畑区民50名が松竹(株)上方歌舞伎塾の指導を受け、平成15年、葛畑芝居堂での復活公演を行った。

その際、農村歌舞伎を継承していくには、定期的な公演が必要であるという結論となり、農村歌舞伎

「葛畑座」を組織し、現在の活動に至っている。また、積極的に外部での公演を行うことで活動の幅を広げるとともに、「葛畑農村歌舞伎伝承友の会」を立ち上げ、全国に情報発信することで、都市との交流にも寄与している。

その他にも、農村歌舞伎を後世に継承するため、平成15年から小中学生が中心となる「せきのみや子ども歌舞伎」の指導を行い、将来に向けた人材の育成を行っている。

本事例は、合併した養父市全域に歌舞伎を始めとする伝統文化尊重の機運を醸成させる等、葛畑座の復活は地域文化振興に多大な貢献を果たしている。集落の誇りを取り戻すばかりでなく、地域の伝統文化を復活させながら、周辺地域と連帯を高めて文化を通じた地域の活性化を図っており、このような取り組みが評価された。



せきのみや子ども歌舞伎「新町井筒屋の場～封印切～」。大人顔負けの演技で観客を魅了した。



平成18年、兵庫県立芸術文化センターで「新版歌祭文 野崎村久作住処の場」を上演。阪神間での初公演かつ満席のため、たいへん緊張。

兵庫県 養父市 (やぶし)



国勢調査人口 (単位：人)				
昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
44,884	36,716	31,290	30,110	28,306

人口増減率 (単位：%)				高齢者・若年者比率 (17年)	
H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率	若年者比率
△36.9	△22.9	△3.8	△6.0	30.9%	12.2%

交通のご案内

自動車 播但連絡道路・北近畿豊岡自動車道和田山ICから国道9号線・県道87号線経由で45分
 鉄道 JR山陰本線八鹿駅から全但バスで30分・関宮下車後、ふれあいバスで20分・葛畑下車
 飛行機 但馬空港から車で80分

団体連絡先

葛畑農村歌舞伎伝承会
 〒667-1105
 兵庫県養父市関宮633
 TEL.079-667-2331
<http://www.fureai-net.tv/kazurahataza/>